資料４

みえ森と緑の県民税基金事業の評価方法

１．評価方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．評価方法の検証　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１．評価方法

10名の委員を３班に分け、班ごとに分担した事業について、別紙に基づき「事業内容」（32点）「情報発信」（８点）の２項目を評価。評価後、各委員の評価点を項目ごとに平均(小数第一位四捨五入）し、２項目の合計を以下により「Ａ」～「Ｅ」で評価。
なお、「①基金積立金事業(事業総括)」は全事業の平均、「⑨-ｲ市町交付金(基本枠)事業」は基本枠全事業の平均で評価。

評価点 合計	評価	
34.0≦X≦40.0	取組が特に優れている	A
28.0≦X＜34.0	取組が優れている	B
22.0≦X＜28.0	取組が妥当である	C
16.0≦X＜22.0	取組は妥当であるが さらに工夫が必要である	D
10.0≦X＜16.0	現状の取組に改善が必要である	E

事業総括・県営事業・市町交付金（連携枠）事業　※事業別

事業名		評価点			評価
		事業内容(32)	情報発信(８)	合計(40)	
①	みえ森と緑の県民税基金積立金事業（事業総括）				
②ーア	災害緩衝林整備事業				
②ーイ	土砂・流木緊急除去事業				
③	災害に強い森林再生事業				
④	森林情報基盤整備事業				
⑤ーア	みえ森林教育ビジョン推進事業				
⑤ーイ	みえ森づくりサポートセンター運営事業				
⑤ーウ	みえ森林教育ステーション運営・整備事業				
⑥	みんなで取り組む三重の森づくり推進事業				
⑦	生物多様性推進事業				
⑧	森林とふれあう自然公園環境整備事業				
⑨-ｱ-a	流域防災機能強化対策事業				
⑨-ｱ-b	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
⑨-ｱ-c	県民参加の植樹祭事業				
⑨ーイ	みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業				
⑩	みえ森と緑の県民税制度運営事業				

市町交付金（基本枠）事業　※市町別

事業名		評価点			評価
		事業内容(32)	情報発信(８)	合計(40)	
1	○○○事業				
2	○○○事業				

別 紙

〇〇〇事業　　　　市町名：　〇〇市

項目	視点	説明	配点	評価の基準				備考
				4（8）	3（6）	2（4）	1（2）	
事業内容	有効性 有益性（×2）	目的が達成され、県民に有益な事業であるか。	8	目的が達成され、特に県民に有益な事業である。	目的が達成され、県民に有益な事業である。	目的が達成されているが、有益性が低い事業である。	目的の達成度が低い事業である。	※評価のポイント 〇「２つの基本方針」の推進に有効であるか。 〇山地災害の未然防止や整備した施設の利活用など県民に有益な事業であるか。
	公益性（×2）	県民への波及効果が大きい事業であるか。	8	県民への波及効果が特に大きい事業である。	県民への波及効果が大きい事業である。	県民への波及効果が小さい事業である。	県民への波及効果が見込めない事業である。	※評価のポイント 〇事業で実施する森林整備、危険木伐採、森林教育活動、木製品の導入、イベント開催、施設整備などは、直接的な事業効果に加え、県民への間接的な波及効果が大きい事業であるか。
	持続性（×2）	持続的・長期的視点に立った工夫が行われているか。	8	特に効果的な工夫が行われている。	効果的な工夫が行われている。	工夫が行われているが、改善の余地がある。	工夫が行われていない。	【例】 持続的な森林づくり、危険木伐採時における施業の工夫、里山整備計画の策定、転用や目的外使用の規制、森林教育指導者の育成、学校等における森林教育活動、幼稚園等への木製玩具の導入　など
	妥当性（×2）	事業効果の発現に向けて、地域の実情や状況変化に応じた工夫が行われているか。	8	特に効果的な工夫が行われている。	効果的な工夫が行われている。	工夫が行われているが、改善の余地がある。	工夫が行われていない。	【例】 さまざまな主体との連携・協働、アンケートによるニーズの把握やPDCAサイクルによる事業のブラッシュアップ　など
	計		32　/ 32					

項目	視点	説明	配点	評価の基準				備考
				4	3	2	1	
情報発信	発信内容	効果的な内容の発信が行われているか。	4	県民税の活用や事業実績等に加え、森林への理解醸成に向けた内容等についても発信が行われている。	県民税の活用や事業実績等について発信が行われている。	県民税の活用や事業実績等について発信が行われているが、改善の余地がある。	発信が行われていない。	【例】 「事業の実績」「事業と２つの基本方針との関係」「多面的機能を発揮する森林の重要性」「森林資源の循環利用」「木材利用の意義」の県民への発信　など
	発信方法	効果的な方法で発信が行われているか。	4	複数の媒体を活用するなど、特に効果的な方法で発信が行われている。	効果的な方法で発信が行われている。	発信が行われているが、改善の余地がある。	発信が行われていない。	【例】 インターネット、ＳＮＳ、広報誌、テレビ、ラジオ、学校だより、オリジナルチラシの作成・配布、イベントにおける発信、ドローンの活用　など
	計		8　/ 8					

評価点 合計	40　/ 40	評価（A～E）	A

事業への提言	

２．評価方法の検証

昨年度旧評価方法で評価した令和６年度基金事業について、評価委員の皆さま（Ｂ班）に新たな評価方法で再評価していただきました。 ※評価事業は、事務局にて選定

【旧評価方法】

事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
尾鷲市 人家裏危険木伐採事業	3.0	B	3.0	B	3.0	B	3.0	B
津市 夏休み森と緑の親子塾開催事業	3.0	B	3.0	B	3.0	B	3.0	B
伊勢市 絆の森整備事業	2.7	C	2.3	C	2.7	C	2.7	C
大紀町 大平つつじ山整備事業	2.3	C	2.3	C	2.7	C	3.0	B

【新評価方法】

事業名		評価点			評価
		事業内容(32)	情報発信(８)	合計(40)	
尾鷲市	人家裏危険木伐採事業	23	5	28	B
津市	夏休み森と緑の親子塾開催事業	23	6	29	B
伊勢市	絆の森整備事業	19	4	23	C
大紀町	大平つつじ山整備事業	19	5	24	C

【検証結果】

旧評価方法と新評価方法は、４段階評価と５段階評価の違いはあるものの、概ね同様の評価結果となりました。